

日本キリスト教会大阪北教会

2017年4月16日 復活節礼拝説教 牧師 森田幸男

聖書 コリントの信徒への手紙一 15章1節～11節

15:01 兄弟たち、わたしがあなたがたに告げ知らせた福音を、ここでもう一度知らせます。これは、あなたがたが受け入れ、生活のよりどころとしている福音にほかなりません。 15:02 どんな言葉でわたしが福音を告げ知らせたか、しっかり覚えていれば、あなたがたはこの福音によって救われます。さもないと、あなたがたが信じたこと自体が、無駄になってしまうでしょう。 15:03 最も大切なこととしてわたしがあなたがたに伝えたのは、わたしも受けたものです。すなわち、キリストが、聖書に書いてあるとおりわたしたちの罪のために死んだこと、 15:04 葬られたこと、また、聖書に書いてあるとおり三日目に復活したこと、 15:05 ケファに現れ、その後十二人に現れたことです。 15:06 次いで、五百人以上もの兄弟たちに同時に現れました。そのうちの何人かは既に眠りについたらしろ、大部分は今なお生き残っています。 15:07 次いで、ヤコブに現れ、その後すべての使徒に現れ、 15:08 そして最後に、月足らずで生まれたようなわたしにも現れました。 15:09 わたしは、神の教会を迫害したのですから、使徒たちの中でもいちばん小さな者であり、使徒と呼ばれる値打ちのない者です。 15:10 神の恵みによって今日のわたしがいるのです。そして、わたしに与えられた神の恵みは無駄にならず、わたしは他のすべての使徒よりずっと多く働きました。しかし、働いたのは、実はわたしではなく、わたしと共にある神の恵みなのです。 15:11 とにかく、わたしにしても彼らにしても、このように宣べ伝えているのですし、あなたがたはこのように信じたのでした。

説教『復活されたキリストに捕えられて』

◆今日はこのように今年の復活節の礼拝をご一緒に守れることを本当に嬉しく思います。また只今「入会式」を行い、三人の兄弟姉妹を私たちの教会に迎えることができました。これは神様の祝福であり、わたしたちの教会に対する神様の大きなプレゼントだと思います。今日は天候の心配もしないではなかったのですが、とても良い天候に恵まれて、本当に神様の祝福が溢れている身に覚えます。

◆只今司会者がお祈りをされまして、「どうか、御言葉が理解できるようにさせて下さい」との趣旨のお祈りをされました。色んなことをわたしたちは正確に理解しないといけません、「御言葉」、聖書の言葉をわたしたちが、聖書が語っているように理解し、受けとめ、信じる。それ以上の幸いはありません。

そして今日の聖書の箇所、コリント前書15章ですが、或る人はこの15章を「福音の光源」と申しました。「光源」、光の源です。つまり、この15章が、福音の光の源、核心だと云う意味であります。私それに加えて、この15章、「復活の章」ですが、これを「福音の源泉」と申したく思います。

◆それで今日の説教の題を「復活されたキリストに捕えられて」と致しましたが、それとも、15章10節の「神の恵みによって今日のわたしがあるのです」にしようかなと、思い巡らして、結局今あるような題に致しました。わたしたち各自には昨日があり、そして今日があり、そして明日へと向かいます。けれども「今日わたしがあるのはただ神様の恵みによってです」と、わたしたちが本当にこのことを、この自分のこととして受け止めるのが、キリスト教の信仰なのです。今日がそうならば、昨日もそうだった。そして今日がある。今日がそうなのだから明日もそうなのですね。主イエス様によって示された父なる神様の恵みは、昨日、今日、明日と揺れ動く者ではありません。世の始めから終わりまで、神様の恵みと真実は貫かれるのです。その点でパウロがここで、「神の恵みによって今日のわたしがあるのです」と、告白していますが、わたしたちもこの事実をわがこととして与えられたので、主イエスの死と命に与る洗礼も受け、クリスチャンとされたのであります。

◆しかし、コリントの教会にもありましたけれども、人生と歴史の諸事に遭遇して、いろんなことにぶつつかると、目が開かれて、自戒して信じた福音の仁慈からわたしたちは離れるということが人生にはおこります。起こりまじけれども、神様の恵みは何があっても揺れ動かないのです。またわたしがどんな人間であっても、神様の恵み、愛、顧みというものはわたしから決して離れない。そういうこと一切合切含めてパウロは、「神の恵みによって今日のわたしはあるのです」

◆それで、これは私が今日の聖書の箇所を讀んでの発見なのですが、今日の箇所に「最も大切なこととしてわたしがあなたがたに伝えたのは、わたしも受けたものです。即ちキリストが聖書に書いてある通りわたしたちの罪のために死なれたこと、葬られたこと。また聖書に書いてある通り三日目に復活されたこと。…そして最後に月足らずで生まれたような私にも現われなされた。」ここに「聖書に書いてあるとおり」という「聖書」とは、勿論「旧約聖書」の事でありませぬ。そして、旧約聖書に記されていることをイエス様において成し遂げてくださった、ということですね。

◆ところで、旧新約聖書は、これだけの厚い分量で書かれているわけです。旧約聖書において、預言・予言されているとおりのことを、父なる神様は御独り子・イエス様において成し遂げてくださったのです。そしてイエス様は、聖書に証されている通りのことを、今も、常に、世の終わりまで為し続けていて下さる事を、わたしたちは先週の受難週の礼拝において、「主の十字架

上の七言」、特に「成し遂げられた」との御言葉・御業の永続性を学んだのであります。わたしたちは昨日も今日も明日も、主の十字架において示された御愛・御執り成しの只中にあるのであります。

◆そこですが、聖書は、本当にこれだけの分量で神様の御業を証しております。そして、わたしたちは、ある時、自分を支えてくれる御言葉はこれだというものに出会い、それを自分の愛唱聖句といたします。愛唱讃美歌との出会いも同様に起こりますね。そしてそれは各人各様でいいのですが、その全体はどこから起こっているのか。全体の核は何なのか。それらの諸愛唱聖句と諸愛唱讃美歌の源泉は何なのか。それを私は今回発見した思いです。使徒パウロはここで、「神の恵みによって今日のわたしがあるのです」と言っております。このことは上で述べて来ました。実はこの「今日のわたしがあるのです」という表現は、旧約聖書の決定的に大事な箇所に出てくる表現です。出エジプト記の3章にくモーセの召命」の記事があります。その14節にこうあります。「神はモーセに、『私はある。わたしはあるという者だ』と言われた。また『イスラエルの人々にこう言うがよい。『わたしはある』という方がわたしをあなたたちに遣わされたのだと。』」この「わたしはある」という表現が、神名で、神様の自称である事については、これまでに何度もお話ししてきました。そして「わたしはある」は「わたしは居る」とも「わたしはあなたと共に居る」とも訳すことが出来ます。この神名と同じ表現を、使徒パウロは用い、その前に「神の恵みによって今日のわたしがあるのです」と表現したのです。「神の恵み」とは、この私が何者であっても、この私が如何なる危機に遭遇しようとも、この私と共に居て下さり、かかる者に最善の配慮を為さって下さる神様のことであります。パウロは、「神の恵みによって今日のわたしがあるのです」と言っております。モーセに語られた時は、「何時いかなる時にも、わたしはあなたと共に居て守る」と云う意味でした。そのモーセに語られた御言葉の真実を、今神様は、主イエス・キリストを通してパウロに揭示して下さったのです。

◆皆さんは、アフリカに渡った医師、アルベルト・シュバイツァーの名をご存じだと思います。音楽家であり、オルガン奏者としても名手でしたが、神学者でもありました。そして彼は、パウロを研究し、パウロの心の一番奥にある信仰を突き止めました。それはガラテヤ書2章20節の「最早われ生くるにあらず、キリスト我が内にありて生くるなり。」だと言っております。主イエス・キリストと一体であられる恵みの神様がわたしの内に生きて働いて居て下さる。その如何にしても償い得ない罪ゆえに、滅びるほかない私と共にいまし、死の滅びから救い上げてくださる神様の共在、それをパウロは「共に居ます神様の恵み」と表現したのですね。パウロは「神の恵みによって今日わたしはあるのです」と万感の思いをこめて感謝を捧げているのです。

いついかなるときにも神様は私たちと共に居てくださる。御独り子を死に渡しても、わたしたちをありとあらゆる試練、苦難、行き詰まり、死、滅びの時にも「わたしはあなたと共にいる」と言ってくださった神様の御言葉は本当だった。その昔から、そして今日もこの私に対して本当だった。

◆現在わたしたちが用いています聖書は『新共同訳聖書』ですが、現在これの改訂版が準備されています。『聖書』の翻訳は非常に大事な事業ですね。それで、先日、『キリスト新聞』で、改訳の状況報告がなされておりまして、上で触れましたガラテヤ書の2章20節の後半部分についての訳付けについて報じられていました。現在はこう訳されています。「わたしが今、肉において生きているのは、わたしを愛し、わたしのために身を献げられた神の子に対する信仰によるものです。」これが以下のように改訳されるそうです。「わたしが今、肉において生きているのは、わたしを愛し、わたしのために身を献げられた神の子の真実によっているのです。」に対する信仰によるものです。」つまり「神の子に対する信仰」が「神の子の真実」に変わるのです。改訳の方が原文をストレートに訳しています。新しい訳がよいと思います。わたしの信仰はぐらついても、神様の真実は揺らがないのです。それによってわたしは生きることを許されているのです。全ては神様の恵みです。御子イエス様の真実です。私たちの人生には行き詰まり、悩み、もうだめだと言う事が起こります。けれども神様の御恵み、御愛は、私たちを救うためには御子をさえ惜しまず十字架に犠牲にしてください程の御愛なのです。

◆そのような尊い御心が示されたわけです。その方が甦られて、今もパウロに現われ、そしてわたしたちにも現れてくださいます。御子イエス様は託された御業を十字架で果たされた。それは現在完了形ですね。その御業を今も成し続けて下さっていることを先週学びましたね。正に感謝をもって神様の恵みを心底から褒め称えたく思います。神様の御恵み、御子イエス様の真実を本当に信じ、感謝して生きることがクリスチャンに与えられている証しであり信仰の幸いであります。

◆お祈りいたします。

恵みに富み給う主イエス・キリストの父なる神様。

あなたの恵みによって、わたしたちは今在ることを赦されていることを新たに覚え感謝いたします。あなたは昨日も、そして今日も、明日も、とこしえにわたしたちを顧みてくださいます。これは万人、すべての人にとっても事実であります。今の時代、内外共に混乱に逢着しています。わたしがあなたに愛されているように、あなたはどこの国のどんな人をも等しく愛して下さいます。そのことを互いに身に覚えることができるような世界にならせてください。どうか、あなたの御心が地になるために仕えさせてください。この祈り主イエス様の御名を通し御前にお捧げいたします。アーメン。